

資料 1

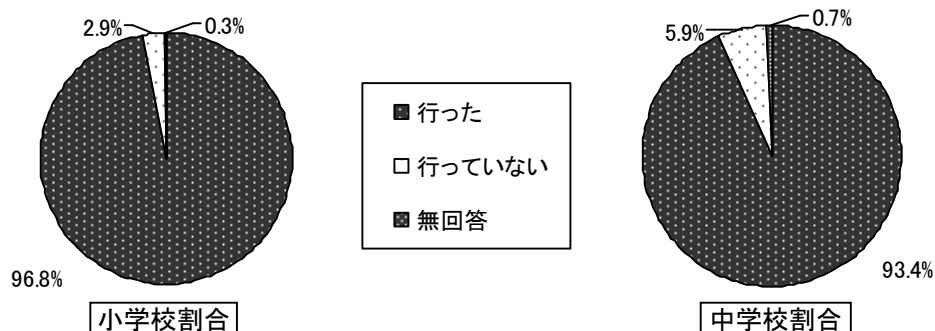
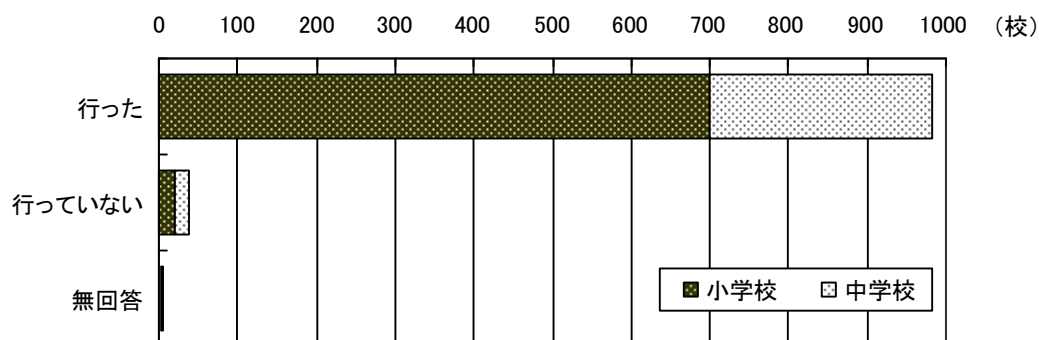
「愛知県内の小中学校における新学習指導要領に関するアンケート」の結果

- ・調査日：平成 21 年 7 月 16 日現在
- ・対 象：県下全小中学校（名古屋市を除く：1,026 校）
- ・回答者：教務主任

(1) 貴校では、昨年度及び本年度の 4 月～7 月（7 月末までの計画も含む）の期間に、「新しい学習指導要領」の理解を図るために、研修若しくは伝達を行いましたか。

- 1 行った      2 行っていない

校種	行った	行っていない	無回答	合計
小学校（校）	700	21	2	723
割合（％）	96.8	2.9	0.3	100.0
中学校（校）	283	18	2	303
割合（％）	93.4	5.9	0.7	100.0
小中計（校）	983	39	4	1026
割合（％）	95.8	3.8	0.4	100.0

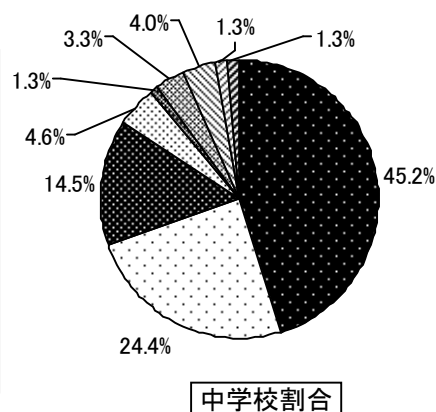
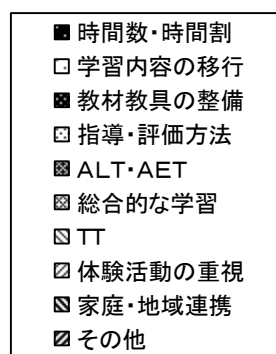
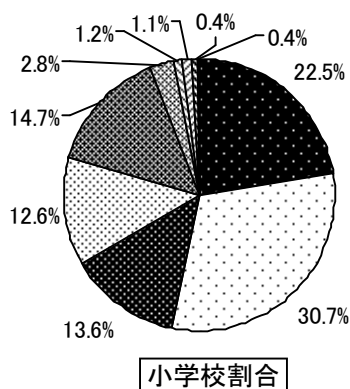
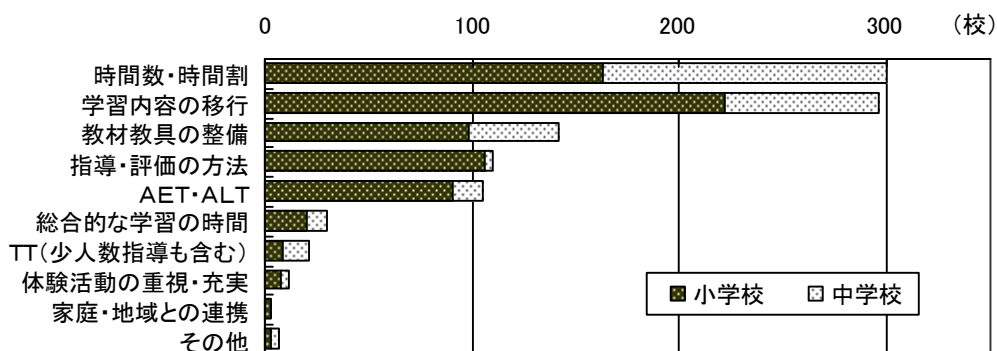


小中学校共に、新学習指導要領の理解を図るための研修会が 90%を超えて実施されている。小学校の方が実施状況の割合が若干高い。

(2) 新しい学習指導要領が本格実施となるまでに、学校の条件整備の面で、あなたが特に不安を感じる項目を、次の中から1つ選んでください。

- 1 時間数・時間割                      2 学習内容の移行                      3 教材・教具の整備
- 4 指導・評価の方法                  5 AET, ALT (英語・外国語活動)
- 6 TT (少人数指導も含む)              7 総合的な学習の時間
- 8 体験活動の重視・充実              9 家庭・地域との連携 (ボランティアなど)
- 10 その他 (アンケート回答別紙に御記入ください)

校種	時間数・時間割	学習内容の移行	教材・教具の整備	AET ALT	指導・評価の方法	総合的な学習の時間	TT [小人数も含む]	体験活動の重視・充実	家庭・地域との連携	その他	合計
小学校(校)	163	222	98	106	91	20	9	8	3	3	723
割合(%)	22.5	30.7	13.6	14.7	12.6	2.8	1.2	1.1	0.4	0.4	100.0
中学校(校)	137	74	44	4	14	10	12	4	0	4	303
割合(%)	45.2	24.4	14.5	1.3	4.6	3.3	4.0	1.3	0.0	1.3	100.0
小中計(校)	300	296	142	110	105	30	21	12	3	7	1026
割合(%)	29.2	28.8	13.8	10.7	10.2	2.9	2.0	1.2	0.3	0.7	100.0

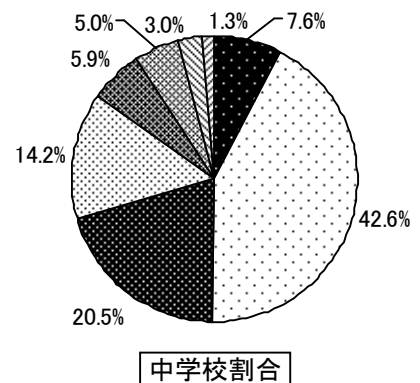
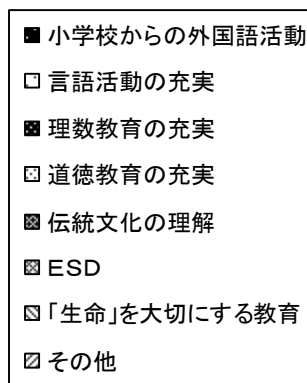
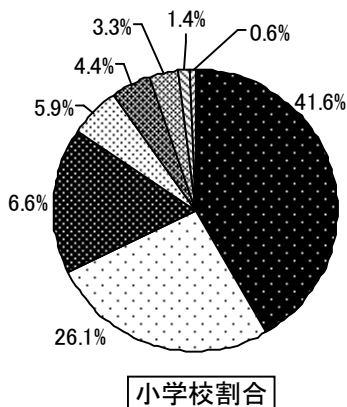
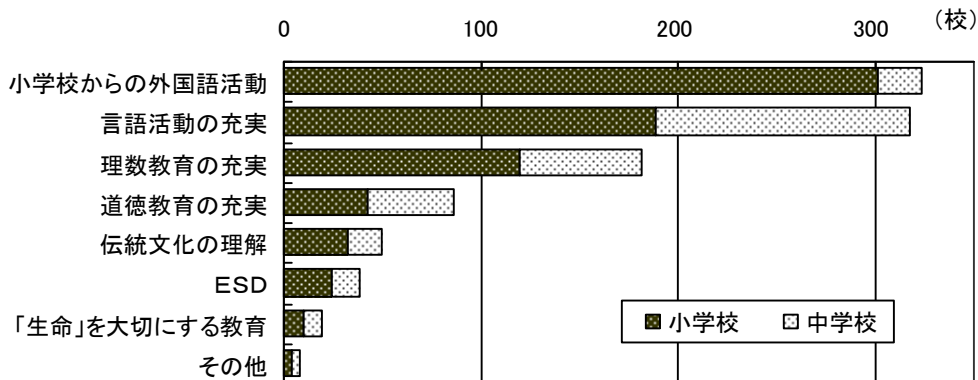


学校の条件面の整備で、小学校では多い方から「学習内容の移行」「時間数・時間割」「AET・ALT」と続く。中学校では「時間数・時間割」「学習内容の移行」「教材教具の整備」となっている。小中共に「学習内容の移行」に伴い、教材教具の整備が迫られている。小学校では中学校と異なり、「AET・ALT」に関する不安が高い。外国語活動が始まるためと考えられる。

(3) 新しい学習指導要領が本格実施となるまでに、**学習内容**の面で、あなたが特に不安に感じる項目を、次の中から1つ選んでください。

- 1 言語活動の充実      2 理数教育の充実      3 道徳教育の充実  
 4 伝統文化の理解      5 「生命」を大切にす教育（保健・食・防災・防犯）  
 6 小学校からの外国語活動      7 ESD（持続可能な開発のための教育）

校種	小学校からの外国語活動	言語活動の充実	理数教育の充実	道徳教育の充実	伝統文化の理解	ESD	「生命」を大切にす教育	無回答	合計
小学校(校)	301	189	120	43	32	24	10	4	723
割合(%)	41.9	26.3	16.7	6.0	4.5	3.3	1.4	0.6	100.0
中学校(校)	23	129	62	43	18	15	9	4	303
割合(%)	7.7	43.1	20.7	14.4	6.0	5.0	3.0	1.3	100.0
小中計(校)	324	318	182	86	50	39	19	8	1026
割合(%)	31.8	31.2	17.9	8.4	4.9	3.8	1.9	0.8	100.0



学習内容面で、小学校では多い方から「外国語活動」「言語活動の充実」「理数教育の充実」と続く。新たな外国語活動を重視するとともに、「言語活動の充実」を不安視する学校が多い。

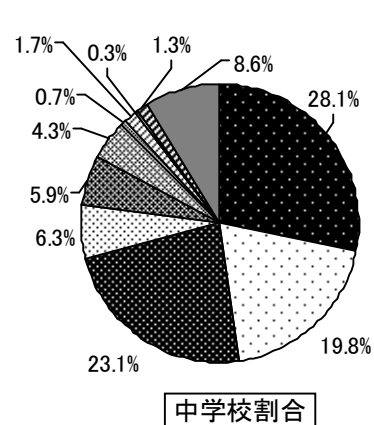
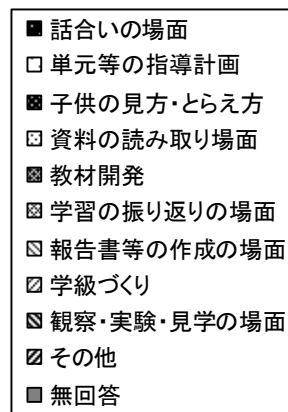
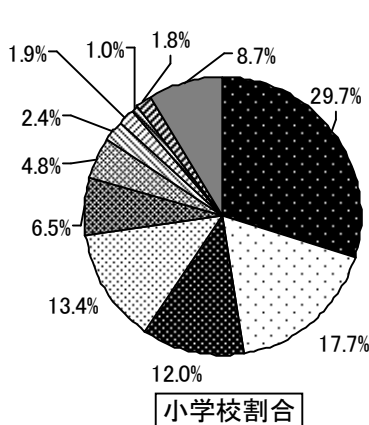
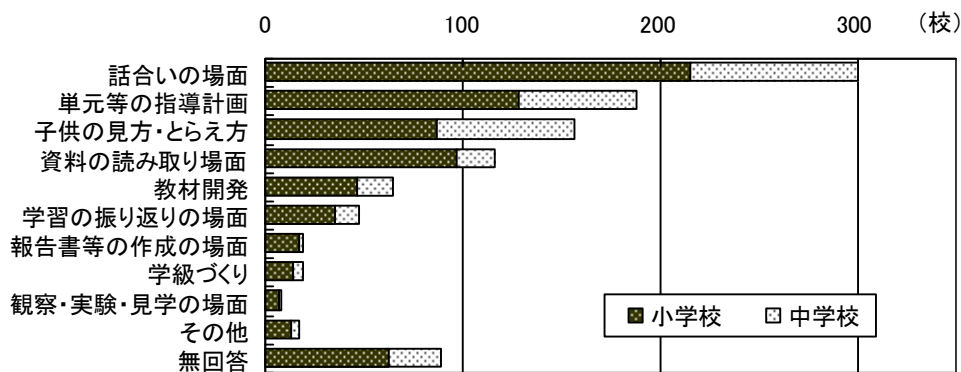
中学校では多い方から「言語活動の充実」「理数教育の充実」「道徳教育の充実」と続く。「言語活動の充実」が40%を超えている。

小中学校共に時間数が増加し、学習内容も増える理数教育をどのように進めていくかが、これからの課題となってくる。

(4) あなたの学校では、本年度、全国学力学習状況調査の結果を基に、どのような授業や指導方法の改善に取り組みたいと考えていますか。次の中から、1つ選んでください。

- 1 子供の見方・とらえ方
- 2 教材開発
- 3 単元等の指導計画
- 4 話合いの場面
- 5 観察・実験・見学の場面
- 6 資料（図・表・グラフ・文章）の読み取り場面
- 7 報告書等の作成の場面
- 8 学習の振り返り（シェアリング）の場面
- 9 学級づくり

校種	話合いの場面	単元等の指導計画	子供の見方・とらえ方	資料の読み取り場面	教材開発	学習の振り返りの場面	報告書等の作成の場面	学級づくり	観察・実験・見学の場面	その他	無回答	合計
小学校（校）	215	128	87	97	47	35	17	14	7	13	63	723
割合（％）	29.7	17.7	12.0	13.4	6.5	4.8	2.4	1.9	1.0	1.8	8.7	100.0
中学校（校）	85	60	70	19	18	13	2	5	1	4	26	303
割合（％）	28.1	19.8	23.1	6.3	5.9	4.3	0.7	1.7	0.3	1.3	8.6	100.0
小中計（校）	300	188	157	116	65	48	19	19	8	17	89	1026
割合（％）	29.2	18.3	15.3	11.3	6.3	4.7	1.9	1.9	0.8	1.7	8.7	100.0

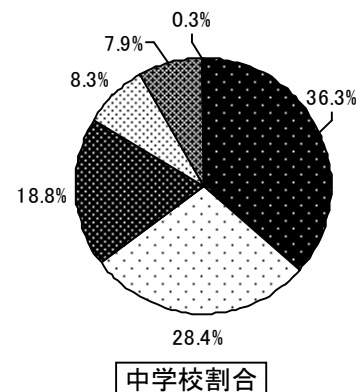
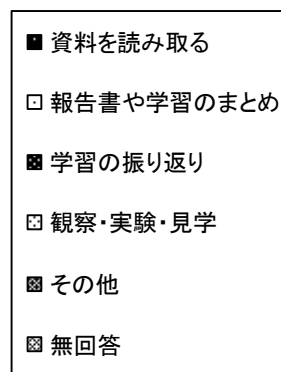
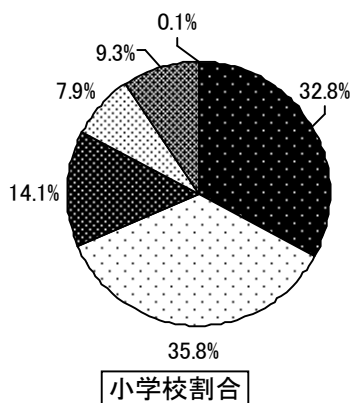
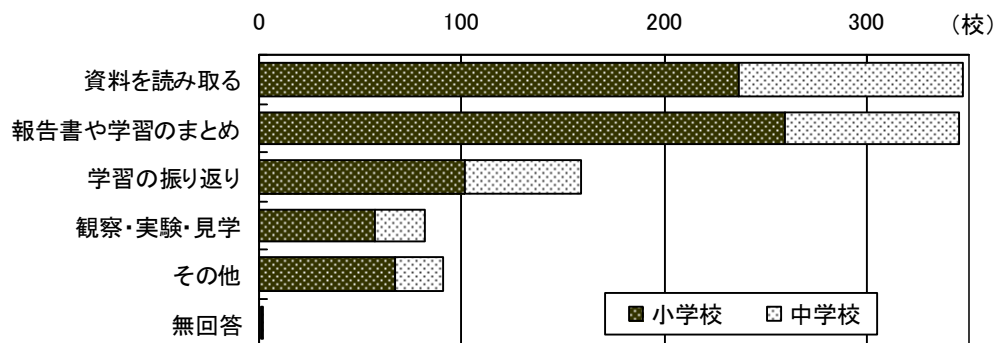


全国学力学習状況調査を基にどのような授業や指導方法の改善に取り組むかで、小学校では「話合い」「単元の指導計画」「資料の読み取り」、中学校では「話合い」「単元の指導計画」「子供の見方」が挙げられる。話合い場面を大切にした指導計画を作成するとともに、小学校では資料の読み取り場面を設定することが、中学校では「子供の見方」を改善していくことが大切と回答している。

(5) あなたは新しい学習指導要領が重視している「活用」をどのような学習活動とお考えですか。次の中から、1つ選んでください。

- 1 資料（図・表・グラフ・文章）を読み取る
- 2 観察・実験・見学
- 3 報告書や学習のまとめを作成する
- 4 学習の振り返り（シェアリング）を行う
- 5 その他（アンケート回答別紙に御記入ください）

校種	資料を読み取る	報告書や学習のまとめ	学習の振り返り	観察・実験・見学	その他	無回答	合計
小学校（校）	237	259	102	57	67	1	723
割合（％）	32.8	35.8	14.1	7.9	9.3	0.1	100.0
中学校（校）	110	86	57	25	24	1	303
割合（％）	36.3	28.4	18.8	8.3	7.9	0.3	100.0
小中計（校）	347	345	159	82	91	2	1026
割合（％）	33.8	33.6	15.5	8.0	8.9	0.2	100.0

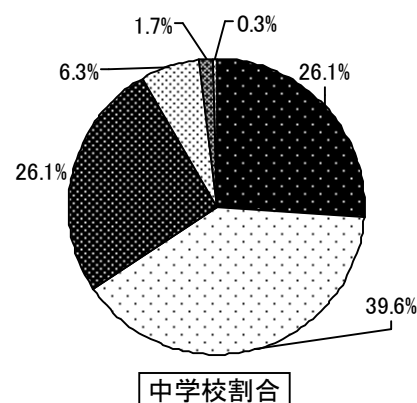
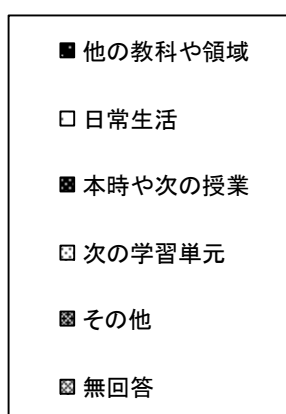
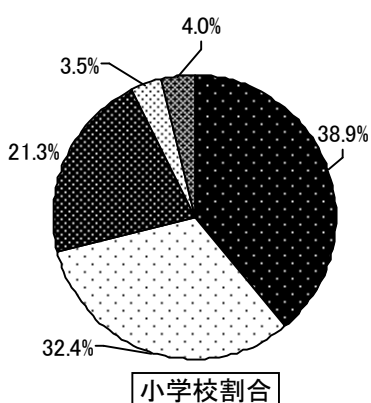
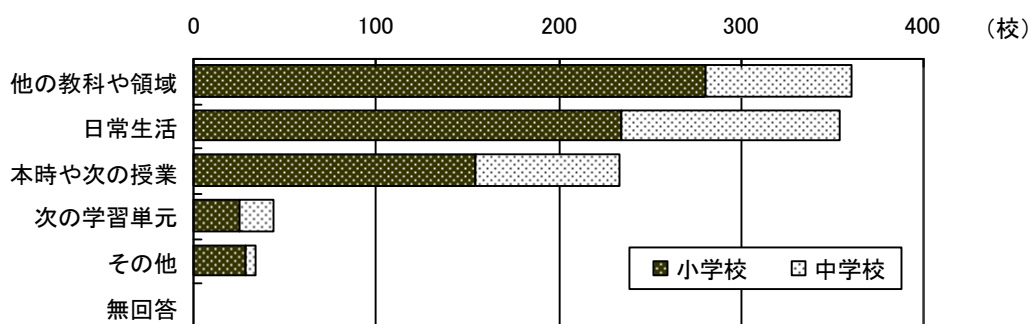


小中学校共に「活用」の学習活動として、「報告書の作成」や「資料を読み取る」が多い。これは文科省の例示があるためと考えられる。資料を読み取り、それを基にして自分なりの意見を書いたり、発表したりすることが活用と考えられている。また学習内容を「振り返る」場面でも活用が行われるという意見が多い。

(6) あなたは、「活用」という学習活動において、「習得」した知識・技能をどのような場面で役立てることとお考えですか。次の中から、1つ選んでください。

- 1 学んだことを本時や次の授業場面で役立てる
- 2 学んだことを次の学習単元に役立てる
- 3 学んだことを他の教科や領域に役立てる
- 4 日常生活に役立てる
- 5 その他（アンケート回答別紙に御記入ください）

校種	他の教科や領域	日常生活	本時や次の授業	次の学習単元	その他	無回答	合計
小学校（校）	281	234	154	25	29	0	723
割合（％）	38.9%	32.4%	21.3%	3.5%	4.0%	0.0%	100.0%
中学校（校）	79	120	79	19	5	1	303
割合（％）	26.1%	39.6%	26.1%	6.3%	1.7%	0.3%	100.0%
小中計（校）	360	354	233	44	34	1	1026
割合（％）	35.1%	34.5%	22.7%	4.3%	3.3%	0.1%	100.0%

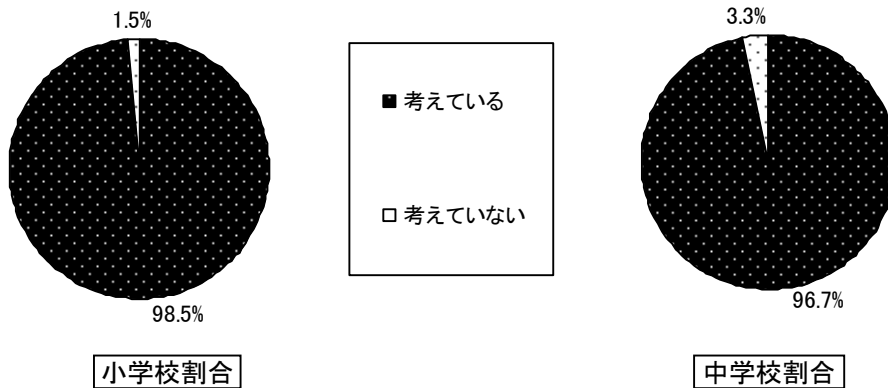
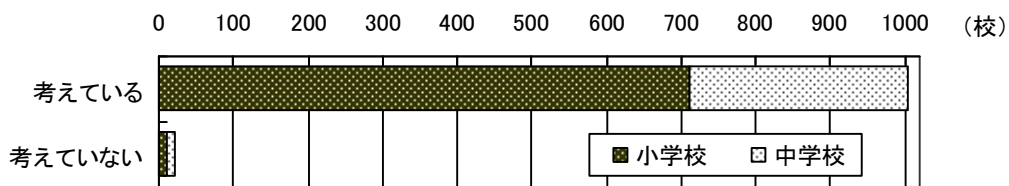


「活用という学習活動において、どのような場面で役立てることか」については、小学校では「他の教科・領域」「日常生活」で、中学校では「日常生活」で役立てるとした回答が多かった。「活用」ということを、次の学習単元や次の授業で役立てる以上にもう少し応用範囲の広い内容と考えられている。

(7) あなたは、確かな学力を育てるために「活用」の学習活動は大切と考えていますか。

1 考えている                      2 考えていない

校 種	考えている	考えていない	合計
小学校 (校)	712	11	723
割 合 (%)	98.5%	1.5%	100.0%
中学校 (校)	293	10	303
割 合 (%)	96.7%	3.3%	100.0%
小中計 (校)	1005	21	1026
割 合 (%)	98.0%	2.0%	100.0%



小学校で712校(723校中)、中学校で293校(303校中)、小中全体の95%以上が活用は大切な学習活動と回答した。「活用」が確かな学力を身に付けるために必要な学習類型であると考えていることがよく理解できる。しかし、指導時間数にある程度のゆとりが見出せないと「活用」としての学習活動を位置付けることは難しいのではないかと不安視する意見が多い。学習を単なる知識の習得に終わらせず、「生きる力」へとつなげるためにも、日々の指導の中で活用の場面を大切にすることが重要と考えられる。「活用」というと何か新しい学習活動のように感じられるが、学んだことを生かして、活動することと考えれば、「話し合い活動」「学習のまとめとする活動」などを充実すれば良いのではないかという意見もあった。

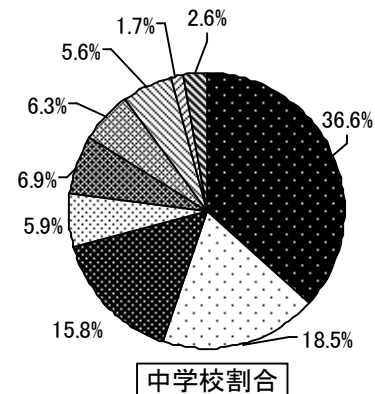
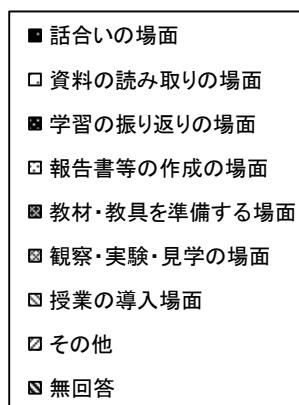
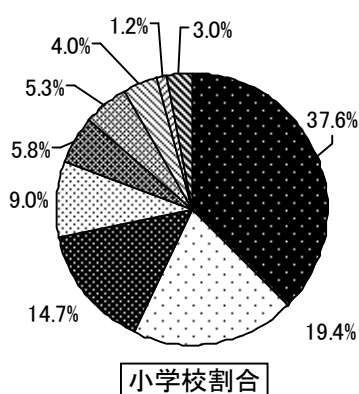
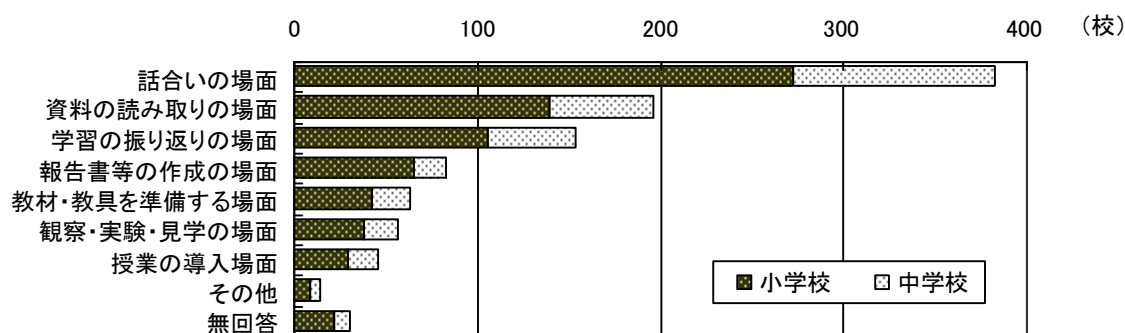




(9) あなたは、新学習指導要領に示された「活用」を取り入れた授業改善を進めるにあたって、**1時間の授業**で、どのような場面で工夫が大切とお考えですか。次の中から、特に大切なものを1つ選んでください。

- 1 教材・教具を準備する場面
- 2 授業の導入場面
- 3 話合いの場面
- 4 観察・実験・見学の場面
- 5 資料(図・表・グラフ・文章)の読み取りの場面
- 6 報告書等の作成の場面
- 7 学習の振り返り(シェアリング)の場面
- 8 その他(アンケート回答別紙に御記入ください)

校種	話合いの場面	資料の読み取りの場面	学習の振り返りの場面	報告書等の作成の場面	教材・教具を準備する場面	観察・実験・見学の場面	授業の導入場面	その他	無回答	合計
小学校(校)	272	140	106	65	42	38	29	9	22	723
割合(%)	37.6	19.4	14.7	9.0	5.8	5.3	4.0	1.2	3.0	100.0
中学校(校)	111	56	48	18	21	19	17	5	8	303
割合(%)	36.6	18.5	15.8	5.9	6.9	6.3	5.6	1.7	2.6	100.0
小中計(校)	383	196	154	83	63	57	46	14	30	1026
割合(%)	37.3	19.1	15.0	8.1	6.1	5.6	4.5	1.4	2.9	100.0



1時間の授業で大切なことは、小中学校共に「話合いの場面」「資料(図・表・グラフ・文章)の読み取り場面」「学習の振り返り(シェアリング)場面」の順番で、この三つで小中全体の7割を超えている。活用を意識した1時間の授業とは、「資料等の読み取り」で得た知識や考えを基に「話合い」を行う。教師は話合いや学習活動の振り返りの手だてを考えていかなければならない。これら学習活動のプロセスを大切にされた授業改善を進めていくことと考えられる。

## (10) 「活用」についての意見

### 【小学校】

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な力をはぐくむためには、今まで以上に単元の指導計画の中で基礎・基本の定着を図ることが大切だと考える。
- ・ 単元を通して、「習得」「活用」「探究」のプロセスを一連のものと考え、計画する。
- ・ 資料から読み取ったことを基に次の課題解決できる力を育成する研究を進めたい。
- ・ 教科の枠を超えた活用、探究型の授業づくりをするために、体験活動や問題解決場面を取り入れた指導計画を進めていく必要がある。
- ・ 活用力を育てるために、既習の内容を定着させる必要がある。知識や技能が定着してこそ、新しい考え方を生み出す活用力を育てることができる。
- ・ 活用する力を高めるために①情報を整理し、図表やグラフを整理し、自分の考えを書く学習 ②子供たちの話し合い活動を活発にするために、発問を工夫したり、資料の精選化をしたりする学習を行う。
- ・ 各教科で獲得した知識をどのような方法で、他の教科や領域で活用していくのか。
- ・ どのような場面で活用を役立てるかで、次授業から次単元へ、そして他の教科・領域へ、更に日常生活へ役立てることを目指すべきである。
- ・ 授業の工夫、構想力など教師の授業力が求められている。
- ・ 既習の知識技能を基に本時の課題を解決しようとする活動と教室での学びを生活で生きて働く活動との2つを活用と考えるが、深化・探究とのとらえ方との重なりを大切にしたいと思う。
- ・ 「活用」というと何か新しい学習活動のように感じられるが、学んだことを生かして、活動することと考えると「話し合い活動」「学習のまとめとする活動」などを充実すれば良いのではないかと考えている。
- ・ 「活用」に含まれる活動の範疇、習得とのスパイラル、探究型授業とのかかわり方について職員間で共通理解を図って、取り組んでいかなければいけないと思う。
- ・ 「活用」については、教科・領域また単元内容等によって、とらえ方がいろいろあるので、一概にこれとは決めにくい。アンケート内容のすべての項目が大切である。
- ・ 「活用」とは1つだけの力でなくて、「深める・広げる・使う・つなぐ・創る・読む」など広範囲で発揮できるものだと考える。「活用」だけを取り出して学ばせるものではないと思っている。
- ・ 新たに「活用」という学習活動が加えられたのではなく、今まで行われている活動で基礎・基本となる知識・技能が「習得」であり、話し合い、実験、まとめの作成、関連単元、他教科に役立っていくのが「活用」だと思う。
- ・ 「活用」の中の表現力の中核が言語活動と言われている。各教科で言語活動の充実をしていきたい。
- ・ 指導時間数にある程度のゆとりが見出せないと「活用」としての学習活動を位置付けることは難しいのではないかと不安である。
- ・ 本校では「習得サイクル」「探究サイクル」そして活用と関わりを図式化して、研究実

践に取り組んでいる。

- ・ 本校の研究テーマとしている「わかる」から「できる」段階へのステップが必要であるし、日常生活や将来に「活用」できるための地域素材の開発や人的交流の充実が必要になると思う。
- ・ 今までも「活用」の学習活動は取り入れられていたと思う。今回活用型学習が位置付けられたことで、活用すべきものが何か明確となった。
- ・ 「習得」「活用」「探究」という新しい授業形態のように思われるが、必ずしもそうではないと思っている。「活用」については授業のイメージをつかむためにも、実際のモデル指導案を作成していくことが効果的と思われる。
- ・ 「活用」を意識する意図はよく理解できる。学習を覚える（入力）ことではなくて、使う（出力）ことをもっと教師が意識していくべきだと思う。

### 【中学校】

- ・ 活用力を高める授業の在り方とよりよい学習評価の方法を見出していきたい。
- ・ 習得した知識を活用していくため、授業の中で、話し合い活動を取り入れ、自分の言葉で他者に説明する場面を設けていきたい。
- ・ 「習得」「活用」「探究」の考え方が職員に意識化されているとはいえないのが現状である。授業の実態は、「習得」に重点を置いた指導が中心である。入試への対応を考えると、これまでの指導スタイルを替えるのは難しい面もあるが、「活用」を意識した授業スタイルに取り組んでいきたい。
- ・ 「習得」→「活用」→「探究」という流れだけでなく、活用的な授業展開を進める中で、基礎・基本の習得を図ることも試みたい。
- ・ 学んだ学習内容を活用し、日々の生活はじめ学習場面で生きた知識となるように、日々の授業を充実させたい。
- ・ 活用については今後の研究課題であり、「発信」「発表」することも大切と考える。
- ・ 「探究」につながる「活用」する力を育成することは大切であり、現職教育のテーマとしていきたい。
- ・ 習得した知識技能を活用する場面においても「言語活動の充実」はきわめて大切だと思う。指導要領の柱の1つであるこの点を重視して、教育活動に取り組みたい。
- ・ 本校では、各教科の教育課程を「習得」「活用」「探究」に分類し、意識して授業と取り組んでいる。特に活用の部分を重視している。
- ・ 「活用」を取り入れるためには、時間的なゆとりと習熟度別に分けた少人数指導の体制が必要であると考えます。
- ・ 時間数が増え、「活用」「探究」の時間的にゆとりがないことが心配である。
- ・ 教科の内だけでなく、日常生活で活用できる学力が求められている。実生活・日常生活から生まれ出る課題や教材を開発していかなければならない。
- ・ 学習を単なる知識の習得に終わらせず、「生きる力」へとつなげるためにも、日々の指導の中で活用の場面を大切にすることが重要と考える。
- ・ 「活用」の意義がわかっておらず、個々の職員のとらえ方がまちまちなので、どのよ

うに授業に生かすかよくわかっていないことが多い。

- 「活用」の学習活動については、生徒の実態・学校や地域の特色を考えて、計画すべき。
- 「活用」については次時へつながるもの、または発表する機会などの設定が必要。
- 1つの教科や単元で学習したことが、同じ教科の次の単元に波及するだけでなく、他の教科へとつながることが大切である。
- 「活用」は身に付けたことを用いて考える力のことと言われる。思考の焦点化のためには、ポイントや考える方向性を的確に示す技量を研修していく必要性を感じる。
- 「人・もの・こと」を授業に取り入れて、活用に値する知識や技能を確実に習得させる授業を目指す。
- 教科によって身に付ける知識技能が異なるように、「活用」の在り方も異なってくる。それぞれの学校で環境教育（E S D）・キャリア教育・人権教育など方向性をもった指導が必要となっている。
- 本校ではコミュニケーションを通して、子供同士が高め合う授業を研究している。単元の構成は「興味をもつ階層」→「追究する階層」→「まとめ・発表する階層」としている。1時間の授業では「問題をとらえる」→「追究する」→「まとめる」という段階を考えている。各段階で子供たちはコミュニケーションをして、気づきや疑問、考えなどを共有し、高め合う。このような学習の過程で得た知識をきちんと整理し、書き残してこそ、活用する力が身に付くと考えられる。